

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
1 学習環境の充実と「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業づくり、「わかる授業」の取り組み	① 落ち着いた雰囲気の中で日課をスタートさせるために5分間の朝学習にしっかり取り組ませる。	落ち着いた雰囲気の中で、朝学習に取り組んでいると答える生徒の割合が A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満	B 評価 90% (昨年 = 86%) A 45% + B 45% = 90% 4月～12月 平均1日あたり4.61人	定時に登校し、落ち着いて朝学習に取り組む生徒は90%だった。諸事情で遅刻する生徒は、昨年度より減少したが、平均1日あたり4.61人で多い状態である。今後、保護者との連携をこれまで以上に密にすることで遅刻を減らし、クラスの生徒がそろった状態で学びに向かうことができるよう指導を継続したい。
	② わかりやすい授業づくりの一環として、特にクロムブック等のICT機器を効果的に活用した授業づくりに努める。	生徒による授業評価において「ICT機器を活用している」と回答する肯定的評価が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 ※ただし、実習科目を除く	A 評価 88% (昨年 = 88%) A 61.2% + B 26.3% = 87.5%	生徒による授業評価では、教員が「ICT機器を活用している」と回答する肯定的評価は87.5%であった。7月の88.4%から若干下降したがA評価となった。クロムブック等の活用が浸透してきているといえる。一方で授業における一人1台端末の活用方法では課題もまだ残っており、今後も活用方法の改善に取り組んでいきたい。
	③ 主体的・対話的な授業づくりを目標とし、発表活動を効果的に取り入れ、生徒が意欲的に授業に取り組めるようにする。	生徒による授業評価において「生徒が発言や発表、学びあいをする場面が大変多い」と回答する肯定的評価が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	A 評価 89% (昨年 = 88%) A 60% + B 29% = 89%	生徒による授業評価において、「生徒が発言や発表をおこなう場面が多い」と回答する肯定的評価は89%となった。7月の評価は90%だったのでポイントを下げたが、高水準を維持できた。若手教員を中心に対話的学習が推進されている。今後も生徒が発言や発表する場を増やしていけるよう授業改善に取り組んでいきたい。
	④ わかりやすい授業づくりを目標とし、板書や教材、話し方や説明などを工夫する。	生徒による授業評価において「授業を受けてよく理解できたと感じる」と回答する肯定的評価が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	A 評価 93% (昨年 = 92%) A 64% + B 29% = 93%	生徒による授業評価において、「授業を受けて理解できたと感じる」と回答する肯定的評価は93.0%であった。7月の93.8%と比較して微減したが、昨年度同時期と比較すると微増しA評価となった。「わかる授業」の推進が上手く機能し、授業の改善や工夫が進んだと考えられるので、継続して取り組んでいきたい。
学校関係者評価委員会の評価		「ICT」の活用が進んでいるが、今後もICTを活用した授業改善に取り組んでほしい。加えて今後はA Iを取り入れた授業も必要となってくる。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針		授業における一人1台端末の活用方法では、効果的な活用の面で課題があるため、今後も活用方法の改善に取り組んでいく。		

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
2 生徒の適性に応じた志望進路の実現	① 生徒が主体的に将来の進路をしっかりと考え、進路実現に向けて取り組むよう、各事業の事前・事後学習を充実させる。 ② 生徒と保護者が進路について話し合う機会を持てるよう、資料や情報を活用しながら面談等で働きかけ、生徒の進路意識の高揚を図る。 ③ インターンシップ前に、実施の目的を丁寧に説明し、基本的な接遇指導を繰り返して徹底して行う。	学校の進路説明会、企業実習等が、主体的に将来を考える上で役立っているとする生徒の肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 家庭で、生徒・保護者が将来の進路について、話しているとする肯定的評価が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 受け入れ事業所の実施後アンケートにおいて、生徒の接遇に関する肯定的に評価した企業数 A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	B 評価 89% (昨年 = 84%) A 42% + B 47% = 89% A 評価 82% (昨年 = 77%) A 33% (保 27%、生 38%) B 49% (保 55%、生 42%) A + B = 82% A 評価 100% (昨年 = 99%) A 83% + B 17% = 100% 実習日誌 (研修担当者評価)	1 年生が 89%、2 年生が 91%、3 年生が 86% となっている。2 年生の評価が昨年と比べて高い評価が得られた。進路意識の高い学年ともいえるが、担任の指導も効果的だった。1 年生、3 年生の評価も高かったが、事前・事後指導を充実させたことで進路指導課としてのアシストができた。来年度も生徒のニーズに沿うことができるような活動を提案していきたい。 1 年生が 72% (昨年 69%)、2 年生が 81% (昨年 76%)、3 年生は 93% (昨年 89%) となっている。昨年と比較し数値が上がっている。特に 3 学年の数値が高いのは、進路を決めるにあたりには保護者と話し合う機会が増えることによるものと考えられる。来年度も保護者と生徒のコミュニケーションを深める取り組みをしていきたい。 すべての企業において実習での評価が高かった。インターンシップでは 32 社 63 名が参加し、長期企業研修では 9 社 20 名が参加した。勤務態度はどの企業からも良い評価を得ている。今後も生徒が自信を持って実習に臨むことができるよう事前指導を徹底して行っていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	震災で地元企業への就職に不安を感じている生徒がいると思われるが、希望が持てる進路指導をお願いしたい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	地元・県内企業への就職を希望する生徒が多いため、今後も地元・県内企業を理解する企画を考えていく。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
3 特別活動の推進による学校の活性化と規範意識の醸成	① 生徒指導課と教職員、公安委員で「朝のあいさつ運動」に取り組む。	生徒の学校評価において「積極的なあいさつができている」と回答する肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C 評価 72% (昨年 = 73%) A 25% + B 47% = 72%	今年度の朝のあいさつ運動は、前期・後期の計2回、公安委員会と生徒会役員を中心に実施した。朝のあいさつ運動期間中は、目を重ねることに自分からあいさつをする生徒が増え、声も大きくなっていった。一方で、期間が終わるとあいさつへの意識が低くなってしまったことが課題である。今後ともあいさつの意義を伝えながら、朝のあいさつ運動を粘り強く継続していきたい。
	② 生徒のボランティア活動や地域への貢献活動等を通して、ボランティア精神や自己有用感が高まったとする生徒の肯定的評価が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	ボランティア活動や地域への貢献活動等を通して、ボランティア精神や自己有用感が高まったとする生徒の肯定的評価が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	A 評価 84% (昨年 = 79%) A 28% + B 56% = 84%	今年度のボランティア週間は、実行したボランティアの内容に加えて、その時の生徒自身の心情や周りの反応などにも着目させて実施した。それにより、自己有用感を強く認識することができたのではないかと考えられる。今後ともボランティアの意義や思いやりの心などに ついて考えさせていくとともに、様々なボランティアや地域貢献活動に取り組ませていきたい。
	③ 基本的な生活習慣の確立のため、1日の活力のもととなる朝食の習慣化を目指した指導を行う。	保護者へのアンケート調査において、生徒が朝食を食べて登校すると答える保護者の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	A 評価 83% (中間 = 72%) A 58% + B 25% = 83% ※今年度の新しい取組であるため、昨年度の比較データなし	今年度判断基準を変更したため昨年度との比較はできないが、中間評価と比較して72%から83%への改善が見られた。本校からの呼びかけによって保護者の方々が意識して改善に努めてくれた結果と考えられる。今後も生徒が朝食をとる習慣が増加する取り組みを継続していきたい。
	④ 朝の登校指導及び昼の校内巡視を通して、規範意識を整えることや、規範意識の大切さを繰り返し指導する。	登校指導や校内巡視の際に、生徒に声かけしているとする教員の肯定的評価が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満	A 評価 94% (昨年 = 88%) A 37% + B 57% = 94%	今年度は、教員の生徒に対しての声かけの肯定的評価が増加した。身だしなみや、歩きスマホなどにも注意をしているが、繰り返し声かけをしなければならない生徒もいる。今後も、各ホーム担任だけでなく、全職員が率先垂範し、生徒たちに対して、声掛けを徹底していくよう、働きかけていきたい。
	⑤ いじめのない学校づくりを目指し、学校生活全般を通して全教職員が生徒の変化を見逃さないような取組を行う。	アンケートや面談での生徒理解や、校内巡視等を通して、生徒の動向を把握し、いじめの未然防止と早期対策に努めているとする教員の肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	A 評価 97% (昨年=92%) A 43% + B 54% = 97%	6月と10月に全校生徒対象に生徒指導アンケートを行い、気になる生徒にはホーム担任が個人面談を行った。面談以外にも、生徒の変化を見逃さないようにアンケートを高くし、ホーム担任・部活動顧問等が必要に応じて面談を行っている。今後も、毎日の昼休みの学年団による校内巡視と生徒の動向把握を継続し、いじめの未然防止と早期対策に努めたい。
学校関係者評価委員会の評価	挨拶について、生徒自らが進んで挨拶ができるよう今後も取り組みを進めてほしい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	外部の方から本校生徒の挨拶について好評価をいただいているが、要所でしっかり挨拶ができるよう取り組みを進めていく。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
4 地域から信頼される開かれた教育課程の推進	① 専門高校として地域社会と連携した実践的な学習を推進する。	専門学科での地域と連携する事業や学習において実践的な取り組みができているとする教員の肯定的評価が A 70%以上 B 60%以上 C 55%以上 D 55%未満	A 評価 70% (昨年 = 63%) A 23% + B 47% = 70%	機械システム科では震災により破損した徳田地区のゴミステーションの設置に取り組み、地域住民から好評を得た。総合学科では農業系列が仮設住宅での多肉植物の寄せ植え会の開催、近隣の幼稚園・保育園の園児とのサツマイモ収穫体験をおし、年代の違う方とのコミュニケーションについて学んだ。震災の影響により、和倉温泉観光ガイドが実施できなかつたため、来年度は、状況を見ながら可能な形で連携を進めていきたい。演劇科は避難所や市内の図書館に出向きミニコンサートを行い、好評を得た。これらの活動を軸に、今後は地域との連携や関わりをおとした実践的な学習を学科全体でさらに進め、生徒の自己存在感や自己肯定感を高められるよう努めていきたい。
	② 生徒が意欲的に取り組むことのできる部活動を展開していく。	部活動の活動日に対して、8割以上参加しているという生徒の肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C 評価 77% (昨年 = 72%) A 52% + B 25% = 77%	昨年より肯定的評価が5%増えたが、生徒自身の目標設定による取り組み意欲の減退が活動の停滞に影響している。生徒にはスモールステップを設定し、目標をクリアすることで得られる達成感を意欲向上に結びつきたい。また、指導者は積極的な研修受講や他校との意見交換、交流を通して指導力の向上を図っていく。
	③ 本校の教育活動の様子をホームページや校門前掲示板を活用し、学校外部へ効果的に情報を発信する。	本校の教育活動の様子を外部に効果的に情報発信ができているとする教員の肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	A 評価 94% (昨年 = 93%) A 31% + B 63% = 94%	昨年度と同程度の高い評価を得られた。今年度はホームページを見やすくするよう昨年度からさらに調整し、部活動ごとの情報発信の頻度も昨年度以上に増えた。今後も学校行事の様子や3つの学科の活動内容、部活動の内容など、多種多様な情報発信に努めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	学習成果発表会で、震災を受けて行った「総合的な探究の時間」での取り組みについて、良い発表が多くあった。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	今後も地域との連携や関わりを通じた実践的な学習を更に進め、「総合的な探究の時間」の充実を図っていく。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
5 教職員の働き方改革の推進	① 教職員一人ひとりが、有機的に連携協働し、具体的な手立てを明確にすることを通して、業務の効率化に対する意識を高め、働き方改革を推進する。	教職員一人ひとりが、意図的・計画的に時間外勤務の減少に向けて取り組んでいるとする肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	B 評価 88% (昨年 = 97%) A 17% + B 71% = 88%	昨年比9%の減少でB評価となった。若手教員を中心に部活動指導、業務での時間外勤務が増加している。改善策として業務の平準化を上げていくが不十分で、今後は各課・科主任の意見を参考に更に進めていく。また、定時退校日2日の設定を教職員各自が予定に合わせ行い、タイムマネジメント意識の向上を図っているが、今後もライフワークバランスのとれた働き方ができるよう改善に努めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	部活動での超過勤務時間について、縮減は難しいとのことだが、工夫して改善を図ってほしい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	定時退校日2日の設定を教職員自らが行うことで、タイムマネジメント意識の向上を図り、ライフワークバランスのとれた働き方になるよう改善に努めていく。			